

感謝場面における日タイ語の言語行動パターンの対照分析
—テレビドラマを資料として—

カウィーチャールモンコン サリンラット・上原 聡
東北大学大学院国際文化研究科

1. はじめに

異文化間コミュニケーションでは、互いの語用論的知識や社会文化的知識が身につかないと、会話の際、問題が生じるだろう。感謝場面でも、問題が回避できない。例えば、タイ語では、誰かに助けてもらった時、様々な表現を付加し用いられるが、日本語では、単独の表現が用いられるようである。また、表現自体からみると、慣用的な表現である日本語の「ありがとう」やタイ語の「Khòp-khun」(lit.ありがとう)の他に、タイ語では、特に親しい相手の場合、「Mêe nâa-rák caŋ」(lit.お母さんってかわいい)のような相手をほめる表現が多用される。しかし、日本語では、この表現が好まれず、特に、相手が目上の場合、「すみません」が頻繁に用いられるようである。このような相違点により異文化間コミュニケーション上の問題が生じる可能性が高い。この問題を解決するために、感謝場面におけるお互いの言語行動に関する理解を深めることが重要である。

これまで、感謝場面における日本語、英語、対照研究が Eisenstein & Bodman (1986) (以降、E & Bとする)をはじめ、熊取谷 (1990)、赤堀 (1995) など挙げられ、広範囲で行われているが、感謝の言語行動に関する日タイ語の対照研究は、スィリラット (2011) が挙げられ、それほど盛んではない。従って、本稿では、これらの研究を踏まえ、テレビドラマのコーパス資料を使い、統計的手法によって感謝場面における日タイ語の言語行動の異同を探り、それに関わる要因を考察する。

2. 資料と研究対象

本稿では多様な感謝場面における言語行動の異同を考察するために、テレビドラマでの実際の発話を文字化した資料を用いた。また、対象としたものは、両国にある恋愛ドラマであり、現代的な内容かつ日常生活における事柄に関する内容があるものである。両国の2000年代の流行ランキングを参考にし、視聴率の高いものを、取り上げた¹。各言語、それぞれ60場面より表現を収集した。上下関係によって相手が「親目上」30件と「親同等」30件に分け、相手にと

っての負担の度合いによって「負担度高」30件と「負担度低」30件に分けた²。本稿では、過去の利益に対し再び言及する表現及びサービスとほめの場面における表現は対象外とした。

3. 感謝場面における日タイ語の表現の分類

本稿では、感謝場面における日タイ語の言語行動を考察するため、意味公式の単位を用い分析を行った。E & B (1986) と赤堀 (1995) による表現の分類を参考にし、調整したものを用い分析を行った。日タイ語の意味公式の分類は以下の通りである。

意味公式の種類	
1. 心的態度の表明	1.1感謝の気持ちの表明
	1.2感謝の必要性の表明
	1.3恐縮や申し訳ない気持ちの表明
	1.4喜び・感激の気持ちの表明
	1.5好き・愛情の表明
2. 相手や話し手に関する言及	2.1相手の名前や対称や愛情を表す名称で呼ぶ
	2.2相手へのプラス評価
	2.3相手の行為の言及
	2.4相手の行為の必要性
3. ものに関する言及	2.5話し手の利益のために、相手に迷惑をかけることに関する言及
	3.1ものに対する言及
4. 利益に関する言及	3.2物事に関する言及
	4.1利益を受けたことへの言及
5. 恩恵に関する言及	4.2利益の内容の言及
	5.1恩返し言及
6. その他	6.1依頼
	6.2理由を述べる
	6.3行動をさせてもらう

以上の意味公式の分類に従い、上下関係と相手にとっての負担度による両言語の言語行動への影響を考察した。

4. 日タイ語における上下関係による言語行動

4.1 上下関係による日タイ語の発話の長さ

表2 感謝場面における上下関係による日本語の場面ごとの意味公式の数の出現数 表3 感謝場面における上下関係によるタイ語の場面ごとの意味公式の数の出現数

場面ごとの意味公式の数	上下関係(N=60)		場面ごとの意味公式の数	上下関係(N=60)	
	親目上(%)	親同等(%)		親目上(%)	親同等(%)
1	23 (76.67)**	13 (43.34)**	1	16 (53.33)	14 (46.67)
2	4 (13.33)	7 (23.33)	2	8 (26.67)	7 (23.33)
3	3 (10.00)*	9 (30.00)*	3	6 (20.00)	5 (16.67)
4-7	0 (0.00)	1 (3.33)	4-7	0 (0.00)	4 (13.33)
合計	30 (100.00)	30 (100.00)	合計	30 (100.00)	30 (100.00)

*p < .10 *p < .05 **p < .01, Cramer's V = 0.355, .05 < p < .01 Cramer's V = 0.267. ns: 5%水準で非有意.

¹ [()内は本稿での略称を示す] <日本語>『幸せになろうよ』(SY) Episode 1-10、計約450分『私が恋愛できない理由』(RY) Episode 1-10、計約500分『Rich Man Poor Woman』(RW) Episode 1-11、計約495分『結婚しない』(KS) Episode 1-11、計約550分『Summer Nude』(SN) Episode 1-10、計約600分『Last Cinderella』(LC) Episode 1-11、計約550分<タイ語>『Sên-taay slây sòot』(SS) Episode 1-20、計約1800分『Pan-yaa-chon kôn khrua』(PK) Episode 1-12、計約1260分『Ræŋ pràat-tha-nâa』(RP) Episode 1-14、計約1470分『Kon rák luaj cay』(KC) Episode 1-16、計約1440分『Sâam nùm núa thòŋ』(ST) Episode 1-15、計約1350分

² 「親目上」は親しい目上、「親同等」は親しい同等、「負担度高」は相手にとっての負担度の高い場面、「負担度低」は相手にとっての負担度の低い場面とする。

5 日タイ語における負担度による言語行動

5.1 負担度による日タイ語の発話の長さ

表6 感謝場面における負担度による日本語の場面ごとの意味公式の数の出現数

場面ごとの意味公式の数	負担の度合い(N=60)	
	負担度高 (%)	負担度低 (%)
1	12 (40.00)**	24 (80.00)**
2	7 (23.33)	4 (13.33)
3	10 (33.34)**	2 (6.67)**
4-7	1 (3.33)	0 (0.00)
合計	30 (100.00)	30 (100.00)

* p < .10 ** p < .05 *** p < .01
Cramer's V = 0.476. p < .05

表7 感謝場面における負担度によるタイ語の場面ごとの意味公式の数の出現数

場面ごとの意味公式の数	負担の度合い(N=60)	
	負担度高 (%)	負担度低 (%)
1	2 (6.67)**	28 (93.33)**
2	13 (43.33)**	2 (6.67)**
3	11 (36.67)**	0 (0.00)**
4-7	4 (13.33)*	0 (0.00)*
合計	30 (100.00)	30 (100.00)

* p < .10 ** p < .05 *** p < .01
Cramer's V = 0.871. p < .01

相手にとっての負担度による場面ごとの意味公式の数に関しては、表6と表7に示したように、カイ二乗検定で統計した結果、日本語では、Cramer's Vの値は0.431で、5%水準で有意差が認められ、タイ語では、Cramer's Vの値は0.871で、1%水準で有意差が認められる。つまり、負担の度合いは、発話の長さに関連しているということは日タイ語とも共通している。

以上の結果より、日本語では、「負担度低」において短い発話が好まれるが、「負担度高」においてより長い発話が好まれる傾向にある。しかし、日本語では、負担の度合いは上下関係ほど強くない。なぜならば、以下の(8)のように、「負担度低」でも、相手が「親同等」の場合、2つの意味公式の使用が見られるからである。

(8)

日本語<場面:親友である桜からお風呂を使うという許可をもらった。(負担度低-親同等)>

美樹:お風呂ありがとう。

(LC)

(1)「物事に関する言及」(2)「感謝の気持ちの表明」

逆に、タイ語では、上下関係は、負担の度合いほど、影響が強くない。負担の度合いが相対的に大きくなると、以下の(9)と(10)のように、どの相手であっても、発話が長くなる。

(9)

タイ語<場面:親しい先輩であるナークが依頼のことを遂行してもらった。(負担度高-親目上)>

(負担度高-親目上)>

Cha-ʔeem : Chán kǎw tǎy khòp-khun pǎi máak ná? thǐi chúay.

Khòp-khun ná?

(lit. チャエーム: 私は先輩に深くお礼を言わないといけません。助けてくれて。ありがとうございます。)

(PK)

(1)「感謝の必要性の表明」(2)「相手の行為の言及」(3)「感謝の気持ちの表明」

(10)

タイ語 <場面:ディンは自分の代わりに、親友であるファーに付いていき、色々手伝ってくれた。(負担度高-親同等)>

Bii-bii : Khòp-khun khun Din máak ná? khá? thǐi chúay yay Fáa.

Tham túk-yàan theen Bii-bii ʔà? Nǎa-rák thǐi-sút láay. (SS)

(lit. ビービー: ディンさん、どうもありがとう。ファーさんのことを手伝ってくれて。私の代わりに全てやってくれたの。一番素敵!)

(1)「感謝の気持ちの表明」(2)「相手の行為の言及」

(3)「相手の行為の言及」(4)「相手へのプラス評価」

以上の結果は感謝場面における英語の言語行動に関する研究である E & B (1986) で述べられていることにより示唆されると考えられる。E & B では、英語母語話者は、相手にとっての負担の度合いが相対的に大きな場面ほど、様々な意味公式を付加することによって発話を長くすると指摘されている。E & Bの結果は、英語母語話者からの結果であるが、以上の結果からすると、タイ語母語話者も英語と同様の傾向が見られるといえよう。

5.2 負担度による日タイ語の表現の種類

また、表現実態からすると、以下の図3と図4で明らかになった。

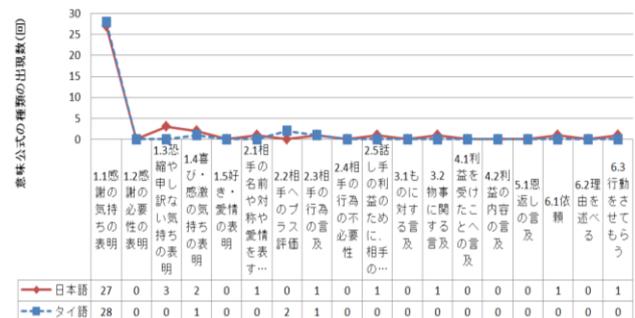


図3 「負担度低」による日タイ語の意味公式の出現数

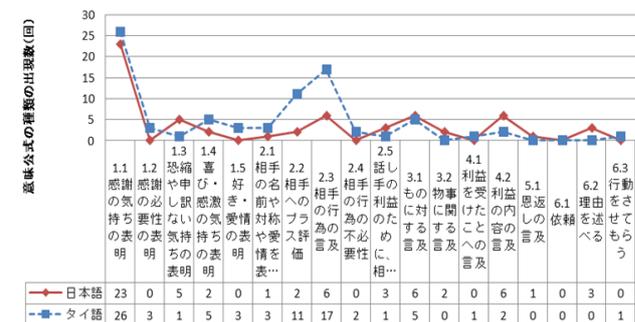


図4 「負担度高」による日タイ語の意味公式の出現数

日本語では、どの負担の度合いであっても、上下関係による表現の使用が観察される。相手が「親目上」の場合、以下の(11)のような「負担度低」でも、(12)のような「負担度高」でも、「すみません」の「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」が現れている。

(11)

日本語 <場面:目上である谷川がお茶を出してくれた。(負担度低-親目上)>

春子:すみません。

谷川:あっ、どうぞ。

(KS)

(1)「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」

(12)

日本語 <場面:夜遅くまで残業していたため、親しい部長である高原が千春を家まで車で送ってくれた。(負担度高-親目上)>

千春: すみません。送っていただいたりして。

(KS)

(1)「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」

(2)「話し手の利益のために、相手に迷惑をかけることに関する言及」

(13)

タイ語 <場面：兄であるランが飲み物を出してくれた。(負担度低-親目上)>
 Ran : Hót chók-koo-lét maa léew. ʔan nù khǒŋ Rin.
 (lit.ラン：ホットチョコが来た。こっち、リンのだ。)
 Rin : **Khǒp-khun khàʔ**
 (lit.リン：ありがとうございます。)
 (1) 「感謝の気持ちの表明」 (KC)

一方、タイ語では、(11)と同様の状況であっても、(13)のように、「**Khǒp-khun**」の「感謝の気持ちの表明」が用いられる。タイ語では、この利益は話者の快適な状況であると解釈されており、「感謝の気持ちの表明」が用いられる。逆に、日本語では、この場面は相手に迷惑をかけた場面であり、相手にとって不快状況として解釈され、「恐縮や申し訳ない気持ち」が用いられるのである。この日本語の現象は、熊取谷 (1990 : 37) で指摘されているように、「話し手にとっての有益状況」を「聞き手にとっての不快状況」として捉える視点の移動による状況転換であり、丁寧行動の方策のひとつである。

また、タイ語では、上述のように、負担の度合いが相対的に大きくなると、感謝場面において相手を満足させるために、多様な表現を付加することによって発話を長くする傾向にある。多用されるのは、「相手の行為の言及」と「相手へのプラス評価」である。(14)と(15)のように、「**Khǒp-khun**」だけで物足りないと思い、「**Khǒp-khun+thii+V.**」(ありがとう。V.てくれて。)の『「感謝の気持ちの表明」+「相手の行為の言及」』という形で用いることが好まれる。

(14)

<場面：雨の日に親しい上司であるグリットがエオを家まで送ってくれた。(負担度高-親目上)>
 ʔeew : **Khǒp-khun náʔ kháʔ thii maa sǒn.** (ST)
 (lit.エオ：ありがとうございます。送ってくださって。)
 (1) 「感謝の気持ちの表明」(2) 「相手の行為の言及」

(15)

タイ語 <場面：ディンは自分の代わりに、親友であるファーに付いていき、色々手伝ってくれた。(負担度高-親同等)>
 Bii-bii : **Khǒp-khun khun Din máak náʔ kháʔ thii chúay yay Fáa.**
 Tham.túk.yàan.thəən.Bii-bii.ʔàʔ. Nàa-rák thii-sút.ləəy. (SS)
 (lit.ビービー：ディンさん、どうもありがとう。ファーさんのことを手伝ってくれて。私の代わりに全てやってくれたの。一番素敵!)
 (1) 「感謝の気持ちの表明」(2) 「相手の行為の言及」
 (3) 「相手の行為の言及」(4) 「相手へのプラス評価」

それに対し、日本語では、「負担度高」で相手が「親同等」の場合、タイ語と異なり、以下の(16)と(17)で見られ、「相手の行為の言及」「ものに対する言及」「利益の内容の言及」を用いることが好まれる。

(16)

日本語 <場面：主人である公平からずっと望ましかった結婚指輪をもらった。(負担度高-親同等)>
 美樹：(婚約指輪を受け取った)すごい綺麗。
 公平：ほら。
 美樹：ありがとう。 (LC)
 (1) 「ものに対する言及」(2) 「感謝の気持ちの表明」

(17)

日本語 <場面：親しい友人である純平は、千春の家に来て、千春が晩飯が作れるように、一日中千春の友人のお子さんと一緒に遊んだ。(負担度高-親同等)>
 千春：…来てもらってホント助かりました。やっぱり電車の種類とか男同士、話が合うね。 (KS)
 (1) 「相手の行為の言及」(2) 「利益の内容の言及」
 (3) 「理由を述べる」

6. おわりに

本稿では、テレビドラマのコーパス資料を通し、感謝場面における日タイ語で好まれる言語行動の異同を考察した。日本語では、上下関係は大事な役割を果たし、発話の長さにも表現にも影響を及ぼしている。相手が「親目上」の場合、単独の表現を用いることで発話を短くする傾向にある。また、「すみません」の「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」も見られる。一方、相手が「親同等」の場合、特に、「負担度高」で「感謝の気持ちの表明」の他に、「相手の行為の言及」「ものに対する言及」「利益の内容の言及」など付加することで発話をより長くする傾向にある。一方、タイ語では、相手にとっての負担度の方がより影響が強い。負担の度合いが相対的に大きくなると、「相手の行為の言及」や「相手へのプラス評価」など多様な表現を付加することによって発話を長くする傾向にある。特に、「負担度高」では、「**Khǒp-khun+thii+V.**」(ありがとう。V.てくれて。)の『「感謝の気持ちの表明」+「相手の行為の言及」』という形で用いることが好まれる。

今後の課題としては、親疎関係の要因も含め、非言語行動についても考察の範囲を広げていくことなどあげられる。

参考文献

- 赤堀由紀子 (1995) 「日本語母語話者の感謝表現—ストラテジーの種類とその使い分けを中心に—」『待兼山論叢』(29), 49-65
 熊取谷哲夫 (1990) 「日本語の『感謝』における表現交替現象とその社会言語学的モデル」『表現研究』(52), 36-44
 スィリラット、サンタヨーパス (2011) 「感謝の場面での謝罪の発話：日本語母語話者とタイ語母語話者の意識と使い分け」『一橋大学国際教育センター紀要』(2), 37-55
 Eisenstein, M. & Bodman, J. (1986) 'I Very Appreciate': Expressions of Gratitude by Native and Non-native Speakers of American English, *Applied Linguistics*, 7(2), 167-185